

2015/11/20 長野県総合教育センター通信

第79号

(27年11月号)

しののめ



〒399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4

TEL (0263) 53-8802 FAX (0263) 51-1290 E-mail :kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

目次

「校内研修支援の広場」	・・・・・・・・・・	1
生徒研究発表会を開催します！	・・・・・・・・・・	2
教科教育部より		
⑤ねえ、学力って何？教えて！（生活科編）	・・・・・・・・・・	3
（理科編）	・・・・・・・・・・	4

“校内研修支援の広場” (その1)

☆「校内研修支援」って、何？

⇒センターの専門主事が、あなたの学校へ訪問し、研修講座を開く学校支援です。

- 学校の都合に合わせて、内容はもちろん、時間や会場、参加者を設定できます。
- 職員会のない水曜日の放課後や、学年会・教科会の研修で呼ぶことができます。
- どんな内容があるのか、サンプルメニューを用意しています。(ホームページ参照)
- 特別な場合をのぞき費用はかかりません。年間通して、随時受付中です。

☆実際に、どんな校内研修が行われたの？

- 教科指導では
 - ・「学力向上につながる家庭学習とは」
 - ・「算数の授業づくり」
 - ・「模擬授業を通して考える算数・数学」
 - ・「音楽会に向けた合唱指導」
- 特別支援教育では
 - ・「授業のユニバーサルデザイン化を進めるために」
 - ・「発達障がい理解と支援」
 - ・「生活単元学習をつくる」
- 生徒指導、情報教育では
 - ・「Q-Uの活用について」
 - ・「ネット社会の現状とトラブルへの対応」
- 教育課題では
 - ・「アクティブ・ラーニングについての講義・演習」
 - ・「小学校におけるキャリア教育」
 - ・「小中の連続性や系統性を大切に学習指導」



お気軽にお問い合わせください

教科指導(0263-53-8803)、学校づくり・マネジメント等(0263-53-8804)、情報・産業(0263-53-8806)

生徒指導(0263-53-8833)、特別支援(0263-53-8805)、その他(0263-53-8802) まで

生徒研究発表会

日時 12月12日(土)

9時15分～13時30分

会場 長野県総合教育センター

<参加学科>

農業科 工業科 商業科

家庭科 総合学科 など

県下の専門・総合学科高等学校に学ぶ生徒が、学習成果の発表や展示等を通じ、生徒の表現力やコミュニケーション能力を育てるとともに、学科の枠を越えて学びあい交流することで、他学科の学習内容を理解し、所属する学科の学習活動に対する意識の高揚を図ることを目指します。

9:15 ~	9:30 ~ 10:55	10:55 ~ 11:40	11:40 ~ 13:00	13:00~	13:05~13:30
開会式	ステージ発表①	展示・実演・販売	ステージ発表②	閉会式	展示・実演・販売
ステージ発表①		展示・ポスターセッション・実演		ステージ発表②	
9:30~ 南安曇農業 9:42~ 池田工業 9:54~ エクセラン 10:06~ 長野工業 10:18~ 上田千曲 10:30~ 佐久平総合技術(工業) 10:42~ 佐久平総合技術(農業)	長野工業 諏訪実業 岡谷工業 上伊那農業 駒ヶ根工業 下伊那農業 蘇南 松本工業 池田工業 エクセラン	販 売 更級農業 辰野 下伊那農業 飯田 OIDE 長姫 塩尻志学館 穂高商業 松商学園		11:40~ 松本工業 11:52~ 諏訪実業 12:04~ 木曾青峰 12:16~ 須坂園芸・須坂創成 12:28~ 飯田 OIDE 長姫 12:40~ 駒ヶ根工業 13:52~ 蘇南	

ねえ、学力って何？教えて！⑤



今日、低学年の教室をのぞいたら、生活科の授業で、片方のクラスはけん玉をやっている、もう一方のクラスはコマ回しをやっていたんですが、生活科の授業では、どのような力をつけようとしているのですか？



そういえば、動物の飼育でもヤギを飼っているクラスもあれば、魚を飼っているクラスもあるわね。

トモニ先生

各クラスで別のことはやっても、何か共通することがあると思うんだけど…。



ミガコ先生

生活科 編



内容に違いがあってもいいということは、つける力は、けん玉が上手になるとか、コマのまわし方がうまくなるとかといった、そういうことではなさそうね。

何か活動する中で、共通の姿があるということかなあ。そういえば、ある先生が、生活科では「気付き」が大切だって言っていたなあ。内容ではないってことかなあ。



つなぐ先生

生活科の目標は、身近なひと・もの・ことに直接かかわったり体験したりすることを通して、自立への基礎を養うことなんだ。ここでいう自立とは、

- ①自分にとって興味・関心があり、価値があると感じられる学習活動を自ら進んで行き、自分の思いや考えなどを適切な方法で表現できること
 - ②生活上必要な習慣や技能を身に付けて、身近な人々、社会及び自然と適切にかかわることができること
 - ③自分のよさや可能性に気付き、意欲や自信をもって、前向きに生活していくこと
- ということなんだよ。



つまり、授業では、子どもたちが主体的にかかわろうとする態度であるとか、自信をもって取り組んでいくことが大事なのね。



このように、生活科の授業は、よりよく生活したり、よりよく学習したりするための基礎を身につける場となります。そのために、教師は子どもたちの興味や関心をとらえ、身近なことから、子どもたちが主体的にかかわりたくなるようなこと、かかわらずにはいられないことを見つけること、様々なものとかかわりを深めながら主体的に取り組むことができる環境を工夫していくこと、そして、自信をもって取り組んでいけるような言葉がけをしていくことなどの支援が大切となります。



トモニ先生

ミガコ先生、理科では「科学的な見方や考え方を養う」ことが求められているけれど、それには授業をどのようにしたらいいのかなあ？

トモニ先生は、授業づくりでどんなことを大事にしているの？



ミガコ先生

理科編



観察や実験もたくさん取り入れているし、話し合いの時間も多くとっているんだけど、結局教師が説明して、結論を示して終わってしまう感じがするんだ。

きっと、子どもたちが何のためにやっている観察や実験か、何について話し合ったらいいのか、わかっていないんじゃないのかしら？ねらいや観点を明確にして追究する活動に取り組めるようにしたらどうかなあ。つなぐ先生はどう思いますか？



つなぐ先生

ミガコ先生の言う通りだね。子どもたちが興味や関心をもつ現象に触れられるようにしても、それだけで終わってしまえば、科学的な思考力を育成することはできないね。理科の学習で学んだ知識や技能が、実際の自然の中で成り立っていることを捉えたり、日常生活の中で役立てられていることへの理解が深まらない原因もそこにあるのかもしれないね。



子どもたちの気付きや疑問を引き出し、予想をもとに観察や実験の計画を立てる。その結果を学習問題や予想と照らして考察し、友だちの結果と比べながら自分の力で結論を導くことができるようにすればよいのですか？

そうだね。理科の中核的な活動となる観察や実験など「体験」の前後で「言語」活動を充実させて、子どもたちの素朴な見方や考え方を、科学的な見方や考え方へと変容させたいね。そして、学習の振り返りで子どもたちが、科学的な見方や考え方が高まったことを自覚できるようにしたいね。



このように理科では、

- ①子どもたちの「もっと知りたい」「調べてみたい」という知的欲求を引き出す（意欲喚起）
 - ②個々の考えを出し合い、話し合うことで自分の考えや追究のよさを認識させる（協働的な学び）
 - ③自ら観察・実験を構想し、結果から考察し、自分たちで結論を導き出していく主体的な問題解決の過程（主体的な学び）
- を授業づくりの3つの柱として位置づけ、授業改善に取り組みましょう。